

特集

地域をつくる学び合い

特定非営利活動法人 ひまわりママ

「ひまわりママ」とは

「ひまわりママ」は、平成8年に、労働省（現厚生労働省）の委託事業である財団法人女性労働協会の「保育サービス講習会」を受講した、土屋美恵子さん（現在「ひまわりママ」理事長）をはじめとする23人の子育て経験のある主婦の方々が、地域の子育てに関心を持ったのがきっかけとなり、誕生しました。土屋さんは、「大変だったけど、いま思うと楽しかった」という、子育ての苦しさだけでなく、楽しさも伝えたいという気持ちもあったそうです。

平成11年9月に、東京都から特定非営利活動法人（NPO）の認証を受け、武蔵野市を中心に子育て中の親の多様なニーズに対し、きめ細やかなサービスを行っています。

現在、「ひまわりママ」には、協力会員として約150人が登録しています。個人利用は、1日平均40件を超え、「ひまわりママ」のある武蔵野市に限らず、近隣区市からの利用も少なくないとのこと。

「ひまわりママ」の子育て

「ひまわりママ」の活動をとおして、子育てを助けて欲しいと考えている保護者が多いということを知ったそうです。「リフレッシュをしたい」という人から「子育ての方法が分からない」といった人まで、さまざまな理由で利用されています。

「ひまわりママ」が考える子育て支援の基本的な立場は、子育てを肩代わりするのではなく、親自身が親として、自立した子



「こどもテンミリオンハウスあおば」の様子

育てを行えるよう支援していくことだそうです。

「子どものことを大切に」という観点から、子どもを親の都合で預けないこと、子どもにとって安心できる環境で預かりたいということを考え、出前で保育を行い、24時間いつでも、ありとあらゆる支援に出かけて行こうと活動してきました。ところが、親の入院など、緊急に宿泊の必要のある保育に対するニーズもあり、平成13年11月から、武蔵野市の補助事業として、「こどもテンミリオンハウスあおば」を開設し、宿泊を伴う一時保育も始めました。

子どもと保護者の笑顔がエネルギー

土屋さんは、「会を運営していくには、大変なこともあるけれど、子どもの笑顔と保護者の方の生き生きとした顔が励みとなり、支えとなっている」と言います。また、協力会員である「ひまわりママ」のスタッフも社会参加をすることによって、若返り、美しくなっていくそうです。そして、「ひまわりママ」のスタッフとなったことで、自分の力を再確認し、再び社会へ飛び立つきっかけとなった人もいるとのこと。また、子育て支援を受けていた利用会員の方が、今度は、「ひまわりママ」のスタッフとして、新たに子育てを支えるといった地域の子育ての循環が生まれているそうです。



地域にある建物を活用した「こどもテンミリオンハウスあおば」



おじいちゃんおばあちゃんの家のような「こどもテンミリオンハウスあおば」の入口